

# 桐kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌

学校法人 目白学園

目白大学大学院

目白大学

目白大学短期大学部

目白学園中学校・高等学校

第4号

通算102号

2004.12



Special issue  
キャリアデザイン

## 「育てて送り出す」目白大学の試み

国際教育交流センター

日本やアジアについて学ぶ  
海外留学生との交流拠点として

目白探訪  
新宿キャンパス9号館

学園トピックス

輝く目白の星

強くなるたびに  
人に優しくなれる気がします

人間社会学部心理カウンセリング学科1年  
小林由佳さん

## キャリアデザイン

# 「育てて送り出す」 目白大学の試み

キャリアデザインとは、職業生活だけでなく、  
将来にわたって自分の生き方そのものを考えていくことです。  
目白大学では2004年度から、キャリアデザインを1、2年次の必修科目として導入しています。  
早くからキャリア意識を育てることで、就職や進学はもちろん、  
目標を持ちながら主体的に人生を切り開いていかれるようにサポートしています。



### ■目白大学のキャリアデザインの特徴

- ①大学の行事を通して、企画力やコミュニケーションの力を育成
- ②大学の教員、スタッフが協力して学生の進路決定を支援
- ③クラスやゼミを中心としたきめ細かなキャリアデザイン教育
- ④学生の個性や能力に応じた演習指導や個別指導
- ⑤外部講師を積極的に招聘し、現場のプロの声を伝達
- ⑥実践的なトレーニングの場を設け、情報の活用力を育成

### キャリア教育は 目白大学のミッション

社会構造が変化し大学の大衆化が進むにつれ、無目的に大学に入学し、そのために将来の進路を決めないまま卒業する学生が増えています。217万人ともいわれるフリーターの存在や、20%を超えるとされる大学新卒者の無業率は、そうした現実の表れといえます。学生の将来に対する不透明感、不安感を払拭しなければ「大卒者の3割が卒業して3年以内に離職」といった状況を改善することはできません。

目白大学は、新しい学部・学科を次々と増設し大学院の拡充を図るなど、高等教育機関としての機能強化に努めてきましたが、こうした現実に危機感を抱き、さまざまな対策を講じてきました。

とくに2004年度からは、「育てて送り出

す」ことをモットーに、全学をあげてキャリア形成につながる実践的な教育カリキュラムを導入しています。なかでも「キャリアデザイン」に関する科目群は、学生に入学と同時に自分の生き方を考えさせ、キャリア形成の重要性を意識し、目標に向かって積極的に取り組む機会を提供しています。つまり、キャリア教育は目白大学の大きなミッションの一つなのです。

### キャリア教育の目的は バリューストレッチング!

キャリア教育は、単に就職内定の獲得をめざす職業教育ではありません。目白大学では、キャリアを「生き方の表現」と捉え、夢の実現に向けて自律的・継続的に自分を磨くことができる能力の育成こそ、キャリア教育であると考えています。キャリア教育の目的は、キャリア形成による学

生の「バリューストレッチング(価値向上)」にあるのです。

ですから主役は学生であり、教職員は支援役に徹しています。学生が自分の意思で考え、動き出さなければ何も始まらない——そこに目白大学のキャリア教育の特徴があります。

学生を主体的にするため、キャリアデザインの授業は講義形式の集合教育と、演習形式のクラスアワーとの組み合わせになっています。クラスアワーでは担任教員が一人ひとりの学習や生活、進路に応じた指導を行い、学生自らがキャリアを形成する支援を行います。そのため例えば、新宿キャンパスでは4週にわたる個人面談の時間を確保しています。



■キャリアデザインスケジュール

1年次春学期

大学という新しい環境に慣れることを第一義とし、レポート作成や資料収集の方法など、今後の学びに必要な基礎知識を体得していきます。

1年次秋学期

「自分は何かしたいのか」という根本的な問題について考える時期。働くことの意味や企業の形態について学ぶとともに、自分の方向性をゆっくりと定めていきます。

2年次春学期

自分の個性や適性を自覚し、それにふさわしい企業、職種をイメージ。希望の職種に就くためには自分をどう磨けばいいのか、具体的な課題を見つけ出します。

2年次秋学期

就職活動の全体像を知ると同時に、実践学習を通して、問題の発見・解決能力やプレゼンテーション能力、論理的思考力などを高めていきます。

3年次春学期

将来の目標に向かって、より具体的にアプローチしていく時期。多様な職種・企業についての情報を提供し、就職先選定の助けとします。

キャリアデザインは時代が生んだ子どもです。社会が、企業が、そして大学自身がその緊急な必要性を強く感じています。目白大学ではキャリアデザインを大学発展のエネルギーと捉え、努力を傾注していきます。

全教職員が関わる  
キャリアデザイン

岩槻キャンパスを例にとれば、キャリア教育の中心的な科目は3科目開設されています。すなわち、1年次対象の通年授業「キャリアデザイン1」(1単位)、2年次対象の半期授業「キャリアデザイン2」(1単位)、2年次以上対象の半期授業「キャリアデザイン3」(2単位)です。このうち「キャリアデザイン1、2」は必修科目であり全学生が履修することになっています。

授業では、担当の講師や担任教員だけでなく、各学科の教員や事務職員が何らかの形で関わっています。つまり目白大

学のキャリアデザインは、全教職員による学生サポート科目でもあるのです。

実践の場を用意し  
明確なビジョン形成を支援

「キャリアデザイン1、2」は、基本的には外部講師による「キャリア講座」とクラス担任が運営する「クラスアワー」で構成されています。キャリア講座で学んだ自己理解、目標設定、表現方法などを、クラスアワーでの討論や大学行事への参加を通じて実践する流れになっています。大学行事には春のスポーツフェスティバルや秋の学園祭を始め、さまざまな場が用意されています。

実践的な活動は、仲間との連帯意識を高め、コミュニケーションを活発にします。こうした社会的な活動の中から、学生は自分を知り、将来に対するビジョンを明確にしていくのです。

実社会との接点を通して  
現実的なキャリア形成へ

一方、「キャリアデザイン3」は、就職委員が案内役となって業種・業界研究を行うものです。インターンシップに参加した学生の声や卒業生の体験談を聞くことも予定されています。社会の現実をありのままに理解することで、自分のキャリア像をより明確にしていくことを狙っています。

新宿キャンパスでは科目構成が若干異なりますが、授業の流れは基本的には同じです。自分を知り、自分のあるべき姿を想像するには、「社会」という鏡が不可欠です。目白大学のキャリア教育は知識の教授だけで終わらず、実践を通してこの社会と向き合っているのです。



■1年次生「キャリアデザイン1」予定表

		地域文化学科		言語文化学科		現代社会学科	
		4時限	5時限	4時限	5時限	4時限	5時限
4月15日	木	初回授業		初回授業		初回授業	
4月17日	土	性格検査					
4月22日	木	キ①		キ①		ク[1]	キ①
5月6日	木			ク[1]			
5月13日	木	キ②	ク[1]	キ②		ク[2]	キ②
5月20日	木			ク[2]			
5月27日	木	キ③		キ③		ク[3]	キ③
5月28日	金	スポーツフェスティバル					
6月3日	木			ク[3]			
6月10日	木	キ④	ク[2]	ク[4]	キ④	キ④	ク[4]
6月17日	木	キ⑤		ク[5]	キ⑤	キ⑤	
6月24日	木						
7月1日	木	ク[3]	キ⑧	キ⑧		キ⑧	
7月8日	木			ク[6]			
7月15日	木		キ⑦	キ⑦		キ⑦	
7月22日	木	ク[4]				ク[5]	
9月30日	木	ク[5]		ク[7]		ク[6]	
11月13日	土	学園祭					
11月25日	木	ク[6]				ク[7]	
12月9日	木	ク[7]		ク[8]			
12月16日	木	ク[8]				ク[8]	
1月27日	木	ク[9]		ク[9]		ク[9]	

■2年次生「キャリアデザイン2」予定表

		地域文化学科		言語文化学科		現代社会学科	
		4時限	5時限	4時限	5時限	4時限	5時限
4月15日	木			初回授業		初回授業	
4月17日	土	性格検査					
4月22日	木	キ①				キ①	ク[1]
5月6日	木			ク[1]			
5月13日	木		ク[1]				
5月20日	木	ク[2]					
5月27日	木	キ②		ク[2]	キ②	キ②	ク[2]
5月28日	金	スポーツフェスティバル					
6月3日	木		キ③	キ③		キ③	ク[3]
6月10日	木			ク[3]			
6月17日	木		キ④	キ④		キ④	
6月24日	木	ク[3]					
7月1日	木	キ⑤		キ⑤		ク[4]	キ⑤
7月8日	木	キ⑧		キ⑧	ク[4]	ク[5]	キ⑧
7月15日	木	キ⑦		キ⑦			キ⑦
7月22日	木	ク[4]					

※キ=キャリア講座  
ク=クラスアワー

国際教育交流センター

# 日本やアジアについて学ぶ 海外留学生との 交流拠点として

海外留学を希望する学生からの相談に応じたり、海外からの留学生を受け入れたりなど、国際交流に関することがらを一手に引き受けている目白大学「国際教育交流センター」。2002年4月オープンというまだ始まったばかりのセンターですが、英語圏からの留学生用のプログラムを開設するなど、海外の学生と目白大学の学生との交流に大きな役割を果たしています。

海外協定校の開拓も行う  
全学的な海外交流の窓口

目白大学・短期大学部の国際交流は、短期大学英語英文科を中心として始まり、1994年に目白大学が開学してからは、岩槻キャンパスの人文学部が学生の交流を中心に行ってきました。2000年、新宿キャンパスに人間社会学部が開設されると、どうしても全学的な規模で国際交流を担当する組織が必要になってきました。こうした背景の中、2002年4月、新宿キャンパスに国際教育交流センターがオープンしました。以来、今日まで、海外協定校の開拓、教員や学生の海外研修・留学、海外の

研究者や学生の受け入れなど、目白大学における国際交流および国際教育に関するあらゆる業務を担ってきました。

特に韓国の提携大学との交換留学生の派遣、受け入れは目白大学開学直後から毎年行われており、今年も4名の学生が交換留学生として両キャンパスで1年間一生懸命勉強しています。

2003年9月には、留学生別科日本・アジア専修課程 (Japanese and Asian Studies Program. 通称 JASP) がスタートしました。日本やアジアの文化を中心とした科目 (後述) を英語で行う1年間のプログラムで、併せて、学生の日本語力に応じた「日本語」の授業が用意されて

います。従来「日本語」の障壁により本学が受け入れることが難しかった国々からも留学生を受け入れることが可能になりました。このJASPの運営もセンターの担当。カリキュラム編成や、授業運

営はもちろんのこと、日本語学習歴の浅い学生に対しても、来日前の事前相談、寮の手配、空港への出迎え等、生活支援をセンターが行っています。これらの業務はセンターの教職員だけでなく、目白大学の学生も一役を担っています。留学生1人に対して在 student 2人がチューター<sup>※</sup>となって、日本語の勉強の手助けや日常生活の細かなことまで相談できるような体制になっています。

留学生はチューターとの勉強のみならず、時には日本各地を旅行したりしています。また、桐和祭で中井御霊神社のお神輿を担いだりと、いろいろなことに積極的にチャレンジしています。

※チューター:個人指導の教師、助言者。

国際交流プログラムを  
高校との連携にも活用

国際教育交流センターの活動は、今後どんどん広がっていく予定です。2005年度には新宿キャンパスに外国語学部が設置されることになっており、英米語学



科では海外で学ぶ「英語語学研修(Power English)」が必修化され、アジア語学科でも1年以上の長期海外留学が強く推奨されています。それに伴って、海外協定校の数もさらに増える予定です。これらの海外研修は学部プログラムですが、外国語学部との緊密な連携のもと、より多くの学生がセンターを通して国際交流を行うこととなります。

その他、国際交流を通じた高校との連携も強化していく予定です。高校生を対象とした「目白大学高校生英語スピーチコンテスト」は、今年で第3回目を迎え、さらに充実を図っていきます。また、来年度からは、留学生別科に在籍する留学生を目白学園高等学校に派遣して、語学修得と異文化理解を深めるプログラムを立ち上げることも計画されています。

- JASPで開講されている授業一覧
- 「日本語初級Ⅰ&Ⅱ」(Basic JapaneseⅠ&Ⅱ)
  - 「日本語中級Ⅰ&Ⅱ」(Intermediate JapaneseⅠ&Ⅱ)
  - 「日本語特殊講義Ⅰ&Ⅱ」(Topics in Japanese LinguisticsⅠ&Ⅱ)
  - 「The Japan PhenomenonⅠ&Ⅱ」(現代日本事情Ⅰ&Ⅱ)
  - 「Japanese Economy」(日本経済)
  - 「Japanese Literature」(日本文学)
  - 「Japanese History and Folklore」(歴史と民俗)
  - 「Japanese Psychology」(日本人の心理)
  - 「Comparative Study: Japan and the United States」(日米比較文化論)
  - 「Japanese Art」(日本美術)
  - 「Tokyo Discovered: Fieldwork」(東京フィールドワーク)
  - 「Japan in AsiaⅠ&Ⅱ」(日本とアジアⅠ&Ⅱ)
  - 「Intercultural Communication in the Asian-Pacific Region」(環太平洋間異文化間コミュニケーション)
  - 「Religions of East Asia」(東アジアの宗教)
  - 「Culture at the Crossroads:Where East Meets West」(東西文化交流)
  - 「Pacific Challenge」(環太平洋発展事情)

1週間毎日日本語・日本・アジアを学ぶ「JASP」

留学生別科日本・アジア専修課程は、留学生を対象とした1年間の課程で、「日本語」を除きすべて英語で授業が行われます。一期目となる2003年9月には7名、今年は6名の留学生を受け入れました。

授業は、能力別の日本語の授業から、日本の経済や文化、東アジアの宗教、東西文化交流など多岐にわたります。また、体験学習も重視しており、頻繁に校外学習を実施しています。

これらの科目を教えているのは、本学の専任教員が中心で、全学部及び短期大学部から教員が参加しており、まさに大学をあげてのプログラムとなっています。

教員によっては、留学生別科の授業に自分のゼミの日本人学生を同席させて、同じ



テーマで議論を行うなどの試みを実施しているケースもあります。一方、学部の授業をいくつか履修している意欲的な別科生もいます。

今後は意欲のある学部生に、JASPの授業を開放し、授業の中で留学生と交流できるようにしたいと考えています。

■主な校外実習一覧

内容	訪問先等
英語によるはとバスツアー	東京タワー、皇居、浅草等
書道体験	目白学園中学校・高等学校(田口先生)
江戸文化体験、日本料理体験	江戸東京博物館、ちゃんこ料理店
和菓子作り体験	虎屋東京本社
工場見学	サントリー武蔵野工場
江戸文化体験	江戸東京たてもの園
地震、火事体験	池袋防災館
日本家屋見学	林美美子記念館
日本の美術見学	国立博物館
岩槻キャンパス訪問	岩槻キャンパス
日本文化体験	巢鴨
お花見	哲学堂公園
大相撲観戦	両国国技館
歌舞伎鑑賞	国立劇場
日本料理実習	生活科学科調理実習室(大久保先生)
小学校の総合学習	新宿区立鶴巻小学校
Japan in Asia	横浜中華街

**留学生との交流を通して 在学生に刺激を与えたい**

国際教育交流センター長 経営学部教授  
**牧野 三佐男**  
(まきの みさお)

目白大学ではこれまでも東アジアの留学生を数多く受け入れるなど、国際交流に力を入れてきました。しかし、多面的な国際理解のためには、さらに広い国や地域から留学生を招き、キャンパスをより国際化する必要があります。

留学生別科日本・アジア専修課程は、日本語がまったく話せない学生でも受講できるようになっているため、結果として英語圏の学生に広く門戸を開くことになりました。現在、日本人の学生、アジアからの留学生、北米からの留学生がキャンパス内外で交流を深めています。

その中心的な役割を果たしているのが、私が顧問を務めるICCというサークルで、英語に興味のある学生が集まっています。現在、日本、中国、韓国の37人の学生が在籍していますが、彼らの活動がキャンパス全体に刺激を与えてくれることを期待しています。

私は、同課程で開講されている「現代日本事情Ⅰ」「同Ⅱ」の授業を担当し、留学生に日本人のものの考え方や文化の違いなどを教えています。今後は東洋思想などの領域にも手をひろげ、日本を理解するためのユニークなプログラムの開発に力を入れていきたいと考えています。

# 目白探訪

## 第4回 新宿キャンパス 9号館

平成15年4月、目白大学短期大学部子ども学科開設に伴い建設された9号館は、地上3階建ての建物です。草花の植えられた中庭を望みながら2階の玄関を入ると、大きな水槽で泳ぐ金魚が迎えてくれます。この建物には、保育にとって大切な音楽、美術、遊戯などの授業を実施するための理想的な実習室が設備されています。また、1階の遊戯室、保育室は、将来保育所として開放できるように子どもにとって良い環境が整えられています。自然との融合、そして「人に優しい環境作り」として注目を浴びる校舎です。



### 遊戯室

1階、中庭に面した遊戯室。大学施設としては初めての試みとして、アトピーや喘息に効果があるとされる竹が床材として使用されています。机を片付けると、からだを使った遊びの基礎技能を学ぶためのスペースになります。



### 保育室

乳児や幼児用のトイレや浴室など、本格的な設備で保育実習の事前指導が行えます。隣接する遊戯室、中庭(屋外遊戯場)とともに保育所として充分対応できる施設となっています。



### 音楽室

子どものための歌やリズム楽器を用いた演奏体験を行う実習室です。防音設備の整ったピアノ練習室も11室あり、学生は予約を入れれば自由に使用することができます。



### 美術工芸室

2階にある美術工芸室は、図画工作、創作デザイン関連の授業に使用されています。基礎的な実技演習のほか、幼児たちの空想力、創造力を伸ばす実習、例えば段ボールの家づくりなどが行われています。



### 研究室

3階には専任教員の研究室が並んでいます。造形が専門である、おかもとみわこ助教授の研究室の扉は、先生自らの手による鮮やかなペイントが施されています。

### Shinjuku Campus Map



子ども学科の学生が世話をする飼育小屋では、かわいいうさぎや烏骨鶏が飼われています。

**TOPICS**  
**学園**  
**トピックス**

**目白学園中学校・高等学校**  
**国際理解教育奨励賞「馬場賞」受賞**

目白学園中学校・高等学校に平成16年度「第15回馬場賞」受賞が決定しました。「馬場賞」とは、財団法人国際教育交流馬場財団が創立と同時に設立したものです。さまざまな角度から国際理解教育推進のための研究・実践活動に顕著な実績があり、地域や他の学校の模範となると認められた全国の国公私立の小学校、中学校、高等学校に対して贈られる奨励賞です。小学校、中学校、高等学校計34校が応募した中、見事6校の入賞校に選ばれました。本学園の研究主題は「多文化社会を生きる—共生をめざす三本の道—」。ACE、SELHI、留学制度に代表される目白学園特有の英語教育と国際交流が評価されました。

ACE  
平成7年より実施している目白学園オリジナル英語プログラム。平成14年度から文部科学省指定のSuper English Language High School (SELHI) に選ばれ、「使える英語教育」実践校として高い評価を受けています。中学のプログラム「Active Communication in English」。高校のプログラム「Advanced Course of English」。

**具体的な取り組みと講評 「多文化社会を生きる—共生をめざす三本の道」**

目白学園中学校・高等学校では、平成2年より交換留学、交換教員、海外修学旅行、海外語学研修、ホストファミリー体験、国際ボランティア活動などを通して異文化接触の機会を広く提供し、グローバルな時代に相応しい人材の育成に努めてきました。「共生」を考えた教育として、異文化との交流を通しての「国際理解教育」、地域との結びつきを通しての「社会貢献」、未来を見据えた「平和教育」の3点を教育の要として取り組んでいます。本年度は全校生徒が近隣清掃に参加し、地域との交流を深めました。また、中学校では講演会やボランティア活動を通して「自ら考え体験の中から学ぶ」ことを重視し、高校では「平和を考える」をテーマに課題研究を行っています。

このような中・高一貫校の実践は、教員一人ひとりの国際理解教育への理解と、教職員全員の合意と協力を抜きにしては不可能であり、実践の積み上げ、日常的な取り組みへの工夫と努力は高く評価される。と、講評をいただきました。



平成16年10月22日に行われた授賞式の様子  
(東京・霞ヶ関の法曹会館にて)

**目白大学**  
**平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム(GP)」に採択されました。**

文部科学省の「平成16年度 特色ある大学教育支援プログラム(Good Practice)」のうち第2テーマである「主として教育課程の工夫改善に関するテーマ」に目白大学人文学部の「教養教育における基礎学力養成計画「連携」」が採択されました。

目白大学人文学部の取り組みは、高等教育が当たり前になり目に見えて学生の学力の低下が進んでいる中、小規模大学として学生の基礎学力養成と学習意欲の喚起を柱とした教養教育の充実を図ろうとするもので、日本語スキル(読む・書く・聞く・話す)の達成、基礎学力を実践的に応用する場の設置、カウンセリング的内容を取り入れた個別指導の強化、という三つの柱を設定しました。統計分析による客観的な成績調査の導入、徹底して地道な教育指導、目標達成のための授業科目・教員・大学職員・学生・学部機関等の間の有機的連携といった3つの特色をもって平成

13年度から開始されました。

近年の学生の基礎学力向上は他大学でも大きな課題となっていますが、この取り組みは日本語スキル等の向上に焦点をあてて、成績のデータベース化と評価、少人数教育、時間割の工夫、評価ペーパー開発、「大学入門」テキストの発行等、体系的な教育プログラムであり、他大学にも参考になる取り組みであるということ。今後この取り組みの全学部への波及、データベースの個人情報保護の工夫、専門課程との接続の工夫、学生の参加などにより、一層の成果が期待できるということが評価されました。

「特色ある大学教育支援プログラム」とは、文部科学省が大学教育を改善するさまざまな取り組みのうち、特色ある優れた取り組みや、真摯な教育努力を継続的に積み重ねて着実に成果を挙げている取り組みを選定するプログラムです。選定された事例を広く社会に情報提供することで、他大学の取り組みの参考となり、今後の高等教育が改善され活性化が促進されることを目的としています。



「桐」に関するご意見ご感想などのメールをお待ちしております。 E-mail [kiri@mejro.ac.jp](mailto:kiri@mejro.ac.jp)

### 空手のワールドカップで世界デビュー!

小林由佳さんは、女子空手界では知らない人がいないほどの有名人です。何しろ64試合に出場して優勝39回、準優勝9回、3位5回という輝かしい戦績を残す凄腕の「戦士」なのです。今年は、テレビ放映もされた女子格闘技「ラブインパクト」にも空手ルールで参戦。すべて判定勝ちしています(10月現在)。さらに、来年5月の「ワールドカップ」に出場することが決まり、いよいよ世界デビューです。150cm、45kgと小柄な小林さんからは、そんなパワフルな姿はとて想像できません。

### 負けず嫌いで、戦績を重ねる

空手との出会いは中学2年生の冬。  
「とても暇で何かしたいと思っていました。ただピアノや習字、水泳など一般的な習い事はやってきたので、何か変わったもので体を動かすことがしたかったのです。兄が空手と柔道をやっていたので、そのどちらかを考えていました。早速タウンページで空手の道場を調べると、家から歩いて数分のところに道場を発見。その日のうちに母と見学に行き、その場で入門を決めてしまいました」

それが現在も小林さんが所属している西山道場でした。

小林さんは入門直後からほとんど毎日道場に通っています。しかし、中学3年になってすぐ



のデビュー戦(極真全日本青少年大会)は、1回戦負けを喫してしまいます。

「相手は中学1年生。直前にあまり稽古をしなかったのが当然なのですが、それでもすごく悔しくて…。それ以来、稽古はきっちりするようになりました」

お兄さんともよく喧嘩をしたという小林さんは、大の負けず嫌い。翌年には3位、さらに次の年にはみごと優勝を勝ち取りました。

### 当面の課題はパワーアップ!

小林さんの空手は実際に相手を突いたり、蹴って倒すフルコンタクトと呼ばれるものです。得意技は「突き」。体が小さく足の長さでは不利なので、相手のふところに飛び込んで突いて倒す試合が多いといいます。大きなケガはありませんがアザは日常茶飯事です。

「稽古は辛いこともありますが、それでも稽古すればただ強くなれるということが、続けてこられた理由ではないかと思えます。それに、試合で出会う強い選手はみな優しいんです。少し力がつくとなんか人に優しくなれる気がします。それが魅力なのかもしれません」

大学で心理カウンセリング学科に入学したのは、やはり相手の心理を読もうということからでしょうか。

「そう聞かれることも多いのですが、

空手とは無関係です。試合を通していろいろな年齢や地域の人と知り合ううちに、人とのコミュニケーションを円滑にするのに心理学が役立つかもしれないと考えたからです」

将来像は未定。空手家として進むか、他の職業に就きながら空手を続けるかも決めていません。総合格闘技への誘いもあるといいます。

「でも今は、来年のワールドカップのことで頭がいっぱい。外国人の選手にパワー負けしないようにと、ウェイトトレーニングも含めてひたすら稽古の毎日です」

知り合いが観に来ると緊張するからと、友だちにもあまり知らせていない小林さん。応援するのなら、テレビの方がいいかもしれません。



輝く目白の星

強くなるたびに  
人に優しくなれる気がします

フルコンタクト空手初段  
人間社会学部心理カウンセリング学科1年  
小林由佳さん